

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500076
法人名	NPO法人 エルダーサポート協会
事業所名	グループホーム桃源の家 大島 (A・Bユニット共通)
所在地	岡山県 笠岡市 西大島 4415-1
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 21 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390500076-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 4 年 12 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や田畑に囲まれ、海が近くにあり、自然豊かな環境の中に施設があります。特に、夕日がホール奥まで照り、眩しく明るくなる瞬間があり、ホール内が明るくなります。入居者様、お一人お一人に寄り添いながら、活き活きと生活を送って頂けるよう、個人のペースに合わせた個別レクを充実させ、穏やかな声掛けや、ゆつくりとした関りを行っている。手作りのおやつを提供したり、行事を行い、喜びと笑顔を引き出せるよう、職員が工夫して、取り組んでいる。毎月の目標を、職員が当番で設定し、それを意識して実践している。1月から10月まで、配食サービスを利用していましたが、手作りの食事提供を再開でき、ますます、職員にも活気が出ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の3点である。まず、3食手作りの食事支援に関して、利用者の食べたい物や季節・行事メニューを取り入れたり、利用者と一緒に出来ること(食事の準備や後片付けなど)を実践することで、五感を刺激し、食事が楽しみや喜びになっていること。二つ目に、個々の羞恥心や自尊心に配慮し、日中出来るだけトイレでの排泄・排便に取り組むなど、自立排泄を支援する体制が整っていること。三つ目に、共有ホールや玄関など、綺麗に整理整頓され、利用者の安全・安心に配慮した動線が確保されていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、『運営理念三箇条』を復唱することで、頭に入れて、理念を把握し、意識するよう努め、実践に繋げている。	玄関と事務所に理念を掲示し周知すると共に、毎朝皆で復唱している。新人職員は新人研修の中で学び実践しながら、理念浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、回覧板を回したり、施設前を散歩されている、地域の方と、明るい挨拶を行っている。地域の行事や、近くの観光地へドライブをし、楽しんでいただいている。	コロナ禍のため、現在は実施していないが、以前は地域の秋祭りや春・秋の大掃除、小学校の行事に参加したり、市民会館での菊花展などを観に行ったり、ボランティアや中学生の職場体験などを受け入れていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をりようして、理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為、会議を中止している状況ですが、中止の連絡時、近況報告を行い、情報交換を行っている。	コロナ禍前は、2ヶ月に一回、民生委員や愛育委員、地域包括等が参加して開いていたが、現在は書面会議となっている。出席者から、現在の面会方法やホームの一日の流れについて意見を貰っている。	参加メンバーへの議事録送付、及び家族への参加呼びかけに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点や、救急車要請、運営推進会議、認定調査、問い合わせ等を行っている。施設内でコロナ感染者が発生した期間は、特に密に連携を取らせて頂き、関係を築くことができた。	ホーム長が窓口となり、分からないことや聞きたいことがあれば、電話連絡している。また、毎月福祉事務所へ出向いて、情報交換・収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に3回以上の委員会は、コロナ感染防止の為、現在1回しか開催できずにいるが、新人職員の研修として、入社してすぐ研修を行い、正しく理解し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に一回本社で行われる身体拘束委員会に担当職員が参加し、事業所内ミーティングの後に研修している。また、毎月、身体拘束委員会と感染予防委員会、看護師を中心として、身体拘束や感染について話し合ったり、実践を交えながら周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回以上の委員会は、コロナ感染防止の為、現在1回しか開催できずにいるが、新人職員の研修として、入社してすぐ研修を行い、正しく理解し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用されている入居者様が2名おられ、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員不足の為、今までは契約を行っていない。11月15日にインタビューを行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、法人より、全家族へアンケートを実施し、その結果を全事業所で共有し、反映している。	家族は面会時に、利用者は個々の状態・状況に合わせて聞き取っている。出た意見等は、ポータブルトイレの設置やリハビリ運動などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング時、意見を出し合ったり、職員個別に、面談を行い、意見を聴いている。	毎月のミーティングや個別面談時(年2回)に意見等を聞き取っている。出た意見等は、勤務日数の調整や食材の買い出し時間などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績は、昇給に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を開き、技術や知識の向上を図り、外部研修等、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、交流を行う。研修内容を他職員に報告し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	11月15日のインテークでは、会話や表情で、ご本人が困っていること、不安な気持ちを汲み取り、安心感をもって頂けたと思われる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、不安、希望をしっかりと聞き取り、要望に沿うよう努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の、状況や希望、要望を伺い、施設で出来ることと難しいことの説明を行い、理解して頂いた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝い的な作業をして頂き、無理強いせず、楽しみながら関わって行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、玄関で10分ほどの制限時間で面会を行う。日々の生活の様子を、毎月お手紙で詳しくお伝えしている。遠方の方の場合は、ご本人と電話でお話しされることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取りや、お誕生日の日には、ご家族からお電話をされ、お話をされ、喜ばれています。	電話の取次ぎや年賀状のサポート、写真の声かけなど、馴染みの関係継続の支援に努めている。また、請求書を送る際、手紙を添えたり、コロナの状況に合わせて、馴染みの公園に出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお話しされたり、歌を歌ったり、そばに存在があるだけで、安心できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で、ご家族を見かけることがあれば、挨拶を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴、嗜好、生活リズムを考慮している。意思を尊重して対応するよう、努めている。	思いや暮らしの希望等は、日常会話から把握している。把握が難しい時は、家族・利用者の気持ちになって検討したり、家族に相談したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビュー時に、ご本人、ご家族、担当ケアマネ、SW等から、情報収集と質問を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの、希望、表情、発言、動き等を観ながら、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認し、医師等からの意見を頂きながら、職員、看護師、ケアマネ、管理者でカンファレンスを行っている。	基本3ヶ月に一回、モニタリング、半年に一回、見直ししている。見直しは、利用者の状態が変化した時など、その都度行っている。主治医の意見や提案(排便コントロールや糖質制限など)を反映し、個々に適したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれに合った対応を行い、介護記録に残し、情報を共有し、プランの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に変化を見逃さず、それぞれに合ったニーズに答えることができるよう、取り組んでいる。介護プランを、職員皆が把握し、プランに沿って記録を残し、次の課題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	太陽の広場へピクニック、笠岡ベイファームへ花見にドライブへ行ったりして、楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には、ご本人とご家族に意思確認を行い、決定している。体調不良時は、かかりつけ医を受診し、医師の診断、治療を受けられるよう支援できている。	かかりつけ医の継続は、利用者・家族の希望を尊重している。毎月一回協力医の訪問があり、事業所の看護師が対応している。緊急時は主治医に連絡し、指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に伝えるべき情報は、必ず介護記録に残し、伝え、共有に努めている。必要時には、病院へ連絡、相談を行い、病院の看護師とも連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	生活の状況、症状を添書にて伝え、担当のソーシャルワーカーと連携を取り、どの状態で退院できるかを、確認しながら、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期、看取りについて説明を行っている。ご家族とご本人の希望をしっかりと聞き取り、事業所が行えることを説明し、話し合いを行っている。プラン更新時にも、再度尋ねて、ご家族に確認を行っている。	契約時、ホーム長が看取り及び重度化した場合における対応に係る指針を説明している。主治医が看取りと判断した時、家族に同意書をもらい、方針等を共有している。プラン更新時など、こまめに家族と連絡を取り合い、意思疎通を図りながら、納得のいく終末期医療に取り組んでいる。	看取りの勉強会の実施に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、慌てることなく、冷静に判断できるよう、行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防避難訓練を実施している。日中と夜間帯を想定し、消防士の確認の下、訓練を行っている。運営推進会議で、地震や水害時について、話し合いを行う予定。	年二回、昼夜想定の下、避難訓練を実施している。二回の内一回は消防署の立会いもあり、消火器の使用方法を学んだり、通報訓練を行ったりしている。また、避難訓練に対するポイント解説やアドバイスもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名字にさん付けで対応している。運営理念の③の、礼儀を意識している。	さん付け呼称やトイレの声かけ、ドアの開閉、服薬時のタイミングなど、一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昔からの嗜好や、ご本人の希望を聴き、思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちや体調、ペースに合わせ、穏やかに過ごして頂けるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方は、好みに合わせ、更衣して頂き、特に受診時や、面会時等は、ボタンが取れていたり、裾がほどけていたりしていないかどうか確認を行っている。取れている場合は、直している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人やご家族から、好きなもの、食べたいものを伺って、食事メニューに取り入れている。おしぼりつくり、テーブル拭き、後片付けをして頂いている。	三食手作りで、季節・行事メニューを取り入れたり、残存能力に合わせて手伝ってもらったり、利用者の状態・状況に合わせて食事形態を変えたりするなど、食事への関心・食欲の向上を図りながら、食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事形態に配慮し、食べやすくバランスの良い食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行い確認をしている。 自己にてできる方は、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの日々の排泄パターンを把握し、定時や随時の、トイレ誘導、パット交換を行っている。麻痺のある方もできる範囲で、トイレ誘導を行っている。	個々の排泄記録から排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレでの排泄・排便が出来るよう支援している。また、早め早めのトイレ誘導に取り組むことで、パット数の減少に繋がった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、野菜を意識し、そして体を動かすよう、ラジオ体操、演歌体操を行い、便秘にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、入浴前には必ず声掛けをし、拒否が見られるときは、時間をずらしたり、日を変更するなど行い、ご本人の希望に添えるよう、支援している。	週二回の入浴を基本としているが、利用者が希望すれば入浴回数を増やすことは可能である。機械浴・一般浴を配備すると共に、個々の状態・状況に合わせて足浴・シャワー浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、横になって頂いたり、体を動かすことで安眠に繋がり、毎日の体操は、欠かさず行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が、個別に、曜日と朝、昼、夕、就寝前を薬ケースに入れ、服薬時は、職員が声を出して、名前、朝昼夕、を言って、ほかの職員にも確認の意味で行い、間違いのないように行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事、お誕生日会等、楽しい時間を過ごしたり、風船遊び、カルタ・パズル・歌など、日々の個別レクを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を観に、ドライブしたり、気候の良い日は、施設の周辺を散歩し、気分転換を図っている。	コロナの感染状況を見ながら、職員と一緒に郵便局や公園、道の駅、菊花展などに行ったり、天気の良い日に玄関先で日向ぼっこしたりするなど、出来るだけ気分転換やストレス発散できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時、ご家族と話し合いを行い、認知症の為、事務所で管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、担当職員が、ご家族あてにお手紙を書き、その月のご様子をお伝えしている。時々、ご家族と電話でお話される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁面飾りを、一緒に作り、ホールに飾ったり、ホールの大きな窓が開放的で、外の自然の景色が楽しめたり、夕日がホールに差し込み、一日の終わりを感ずることができる。	適切な温度・湿度に保たれホールには利用者と一緒に作成した折り紙作品等が掲示しており、季節感を醸している。また、畳のベッドで横になったり、対面式の台所で職員と会話するなど、個々に居心地良い場所で自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の居心地の良い場所に、移動したり、個別レクをされたり、軽い運動をしたり、それぞれにできることを提供して関わっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていたタンスを置いたり、ご家族との写真を置いたり、好きな楽器や本を置いて、壁面飾りを貼って、穏やかに過ごして頂けるよう心掛けている。	タンスやハーモニカ、ウクレレ、孫・ひ孫の写真、カーブのカレンダー、三面鏡など、馴染みの物や愛着品、趣味の物が持ち込まれており、個々に居心地よい居室となっている。転倒リスクを考慮して、フローリングの上に畳を敷いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置など配慮し、歩行時や車椅子使用時、安全に安心して移動でき、自立した生活を送れるように支援している。		